

もちの木園・グループホームとも

令和 7 年度地域連携推進会議議事録

1. 開催日時：令和 7 年 12 月 3 日（水）13:00～14:45

2. 開催場所：もちの木園 食堂

3. 出席者： 施設長

副施設長

もちの木園

利用者代表 1 名

家族代表 1 名

グループホームとも 利用者代表 1 名

家族代表 1 名

民生委員 板坂地区 1 名

福田地区 2 名

4. 会議

本日の会議について、グループホームとものバックアップをもちの木園が行っており、両施設が密接に連携し合う関係である事、グループホームとものある福田地区、もちの木園のある板坂地区が隣接している事から、両施設の会議を同時に行い、連携を深めていく事とする。

施設長あいさつ、出席者自己紹介後、会議を実施。内容は以下の通り

（1）地域連携推進会議について

（2）法人の沿革・理念

（3）もちの木園の紹介

①利用者様の状況

- ②職員体制
- ③支援内容
- (4) グループホームともの紹介
 - ①沿革詳細
 - ②利用者様の状況
 - ③職員体制
 - ④支援内容
- (5) 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会の活動報告
- (6) 現状の課題（もちの木園）
- (7) 現状の課題（グループホームとも）
- (8) 財務・運営状況報告

上記（１）～（８）まで、内容詳細は別紙レジュメ通り

(9) 意見交換

グループホームの今後について

現在は自宅等で生活出来ているが、将来的にはグループホームを利用したいという声は多い。また、もちの木園の利用者様の中にも、グループホームでの生活を希望される方がおられる。そのニーズに応える為、法人では、新たなグループホームの立ち上げを計画している。現在、同法人の通所施設である、たかはしサポートセンターに隣接する場所に土地を確保しているが、建築資材の高騰があり、予算の関係で計画が中断している。現在のグループホームともは、夜間の支援体制がなく、利用者様が高齢化していく中でのケアには課題がある事も含め、

実現に向けて工夫を行っている状況である事を確認する。

地域との交流、連携について

もちの木園では、地域の学校等の行事に招待して頂いたり、施設に学生を招いての交流会を実施したりしているが、参加人数は過去と比べて少ない。以前行えていた近隣大学の学園祭への参加や、地域の方を招待して行っていた夏祭りも、コロナ禍以降実施できていない。西治区の盆踊りで法人の太鼓クラブの出演機会を頂けたりと、新たな機会もあるが、全体として、外出・交流機会は減っている。利用者様の意思決定支援を支えてい

く為にも、こういった機会を増やしていく必要がある事を確認する。

連携については、現在、神崎郡自立支援協議会では、引きこもり者の支援を協議している。また、障害があっても福祉サービスにたどり着かずに、地域で不自由な生活を送っている方もおられる。地域の状況を知っておられる民生委員の方から情報をいただき、サービスに繋げていく流れが出来れば良い連携が出来る事を確認。また、地域住民の方と障害のある方が、生活の中でお互い知り合いとなり、何か困っている時にアドバイス等が頂ける関係性が良い事も確認する。

災害時の対応について

グループホームの利用者様について、もちの木園がバックアップに入っているが、有事に駆け付けられない場合も想定される為、この度、福崎町の災害時要支援者名簿に登録を行った。これから災害時個別支援計画を作成する段階。

もちの木園では、高岡小学校が避難場所になっており、そこに避難する想定での訓練を行ったりしているが、有事の際、地域の方々と共に同じ場所で過ごすのは、障害特性上難しいのが実情。

一方、地域の中では、避難訓練をしても、足腰の悪い方が避難所まで遠くへ行けない方がおられたりと、実際の有事の事を考えると難しい課題がある。

それぞれの課題を確認し、互いに工夫し合っていく事を確認する。

その他

もちの木園では、施設内で、インフルエンザ・新型コロナウイルス等の感染症が発生した場合等に、感染拡大を防ぐ為、男性・女性の往来を制限したり、部屋食にする対応をとっている。その対応が、「隔離」という呼び名になっているが、一般的に「隔離」という言葉は重たく受け止められがちで、その言葉のみが広がってしまうと、施設にとってはマイナスではないかと意見をいただき、呼び名を改善していく事とする。

5. 閉会

施設側より、本日出席下さった方々に対し、貴重な機会となった事に対しお礼を述べ、今後とも協力下さる様依頼し、閉会する。